



28歳、ソフト業界への未経験転職。 書類選考に落ちるも社長に面接を懇願 じっくり話し合い内定を得ました

コガソフトウェア株式会社 システム部第一課 前田正行さん(30歳)

「じっくり何度も考えました。大都市の地震災害に土木分野から役立ちたいという思いで選んだ技術分野であり、その思いが満たされる仕事に就いていましたから」

前田さんは中堅クラスのゼネコン

理想だったのだが



コガソフトウェアでは「社員の健康と充実した私生活なしには会社の発展はない」と考える。社内は明るさいっぱい。

「財産」を捨てる動機とは何か。「会社自体と土木業界の両方に失望し、将来に不安を感じるようになったからです。会社の方針は一定せず、業績が低迷。年収は入社2年目をピークにして下がる一方でした。土木業界としても仕事量が減り、ゼネコンは大手だけが残れば良いという感じになってきました。業界に根強



に勤めていた。入社後の5年間で、災害対策水門新設工事の施工管理や、高速道路・各種橋梁の耐震設計、耐震解析、さらには、工事見積もり業務、首都高速道路の新設トンネルの耐震詳細設計を次々に担当。土木エンジニアとしては順風満帆のキャリアを築いていたのである。

同僚と雑談する前田さん。今は大手生保のシステム部門に8人で常駐し、協力会社のプログラマをまとめる立場になりつつある。

経験ゼロからの

転職

成功物語

Vol.14

取材・文/須田忠博 撮影/武島 亨

前職

ゼネコンの
土木エンジニア

経験ゼロで

ソフト開発会社
のSE

プロフィール

まえだ・まさゆき ●1976年生まれ。99年に早稲田大学理工学部土木工学科を卒業し、中堅ゼネコンに入社。災害対策水門新設工事の施工管理を1年担当後、土木設計コンサルティング会社に2年間出向し、高速道路や各種橋梁の耐震設計、耐震解析に従事する。その後、出向から戻って工事見積もり業務を1年、首都高速道路の新設トンネルの耐震詳細設計を1年経験。会社と土木業界の将来に不安を感じ、2004年の前半、転職活動を行った。今の会社への入社は同年9月1日付。

コガソフトウェア株式会社

設立/2000年 資本金/2710万円 売上高/6億2800万円(2006年3月期) 従業員数/104名 本社/東京都台東区 事業内容/システムソフトウェア開発全般

2004年1月
転職を考え始める

漠然と考えていた転職を具体的に考え始める。ポータスが2期連続で出なかったことが引き金になった。会社と土木業界の将来に不安が募った。

2004年3月

希望がかなう可能性を検討
情報誌やインターネットで求人情報を見始める。28歳、全くの未経験でも、今からSEになれるのかどうかが一番の気掛かりだった。

2004年4月

転職活動を開始
人材紹介会社3社に登録。IT業界に関する基礎知識を得るとともに、求人情報を収集。可能性を再確認し、応募先の吟味に力が入る。

2004年6月

今の会社に応募、内定
「リクナビNEXT」で今の会社の求人を見、2回の面接を経て内定。入社は、仕事の区切りとなる9月1日とした。

経験「ゼロ」、ココをアピール

最初は書類選考で不採用
しかし、社長にメールで訴えた

当時28歳で、ソフトとは無縁で過ごしてきました。ですから、転職したいという強い意志、真剣さを伝えるようにしました。実は書類選考でいったん落とされたのですが、面接だけでもしてほしいと社長にメールを出したんです。

1次面接は社長と長時間
トコトン話し込んだ

人材育成の体制や過重労働をさせない社長の方針など、私の転職先はここしかないという思いで1次面接に臨みました。夜8時から社長と1対1で話し始め、終了したのは翌日の未明。私も真剣でしたが、社長の方はもっと真剣だったんですね。

転職活動Q&A

Q1 今回の転職で応募した社数、内定した社数は?

3社に応募し、2社から内定をもらいました。

Q2 今の会社の面接回数は?

2回です。1回は筆記試験と社長面接。2回は、妊娠中の妻が私の転職に賛成していることを確認したいという社長の意向で、妻同伴でした。

Q3 給料は上がりましたか?

社宅を出たので入社当初は実質的にかなりのダウンになりましたが、2年目の今は前職を大幅に上回る年収です。

Q4 今の会社に転職していちばんよかったことは?

前向きに将来を想像できることです。

Q5 転職を考えている人にアドバイスをするとしたら?

リスクを考えることも大事ですが、人生は一度きり。後悔しないためには断念と行動です。

採用担当者に聞きました
前田さんを採用した理由

強い熱意と基礎能力に加え
夫人も応援している

彼は最初、書類選考で不採用でした。28歳からソフト技術に取り組むのは新しいという判断でした。ところが、「無礼は承知ですが、会うだけ会ってほしい」とメールしてきた。その物言いが良かったし、そんなに熱意を見せる応募者は初めてでした。それで1次選考に呼び、筆記試験をしたら、とても良い点数。転職理由や志望動機などを詳しく聞き、2次面接では夫人にも来てもらって本心を確かめました。彼女の応援も間違いなく分かり、これなら大丈夫と採用を決断したんです。



代表取締役社長
古賀 淳二氏

い、古い体質も気になっていました。いくつかの点で夢と現実ギャップがあり、それが大きくなっていったということですね。

その一方で、前田さんには土木以外にも興味を持っていた技術分野があった。大学受験の際に最後まで選択を迷った情報工学科だ。

「阪神・淡路大震災であればどの都市災害が出なかったら、情報工学科に進学したはずなんです。だから、転職するのなら、ソフト開発技術者になりたいと思いました」

転職を本気で考えるようになったきっかけは、ポータスが2期連続で出なかったことだった。既に結婚し、子供が欲しいと思っていただけに不安が募った。それに反比例してソフト業界への希望が膨らんだ。

採用されるか?
ソフト技術ができるか?

だが、繰り返しですが、すぐに転職を決心したのではない。会社と土木業界の将来に見切りをつけたとはい

え、学生時代を含めると10年近く土木技術一辺倒でやってきたのだ。仕事そのものは好きだし、やりがいもあったから、なおさらだ。

また、年齢も気になったという。「当時28歳のド素人を採用する会社があるのかどうか。さらに、この年齢でゼロから勉強を始め、果たしてソフト技術を習得してほかの人たちに追いつけるものなのかどうか。何も知らなかったから、一つ一つの疑問を解消しながら考えを整理していったんです」

人材紹介会社にも登録した。キャリアアドバイザーから教えられたIT業界の構造や求人職種、仕事内容は大いに参考になったという。

「全く未経験でソフト技術者になるには28歳が限界だろう。そんな感触を持ちました。逆にいえば、ここで動かないと後悔することになる。そう思って応募し始めたんです」

重視したのは研修体制と経営方針だった。入社後の充実度が、勇気を奮って挑戦する転職のリスクを低め

るだろうという判断だった。

こうして転職活動を行い、入社を決めたのがコガソフトウエアである。選び抜いた会社で成功をつかんだ

同社は元SEの古賀社長が創業したソフト開発会社で、対象システムは業務系全般。現在はJAVAVでの開発を専門にしている。

同社の特徴は大きく2つある。ひとつは過重労働を排した家族主義。社員の健康管理を最も重視し、活気と笑顔にあふれる職場づくりをモットーとする。月平均の残業時間は、ソフト業界では異例の30時間だ。もうひとつの特徴は研修で、入社後、最低で2カ月、最長では6カ月をかける。だから、未経験者が数多く活躍している。資格取得支援制度も充実している。資格を取れば毎月の手当が加算される仕組みだ。

前田さんはこれらの特徴を求人広告で知り、魅力を感じて応募したが、実は書類選考でいったんは不

採用になった。それでもあきらめ切れない前田さんは、面接だけでもしてほしいと社長あてにメールを出して食い下がり、何とか直接会う機会を得る。面接では社長からじかに長時間かけて話を聞いた。自分にはこの会社しかないと思信したという。

入社後、前田さんは3カ月の研修を受け、客先に常駐してOJTを兼ねた実務に就いた。

「勉強は楽しかったです。年齢を気にしたのは杞憂でした。この1年半でソフトウエア開発技術者など8つの資格も取れて、年収は大幅増。転職後に子供も誕生して、公私ともに充実し、明るい未来もイメージできるようにになりました。過去にとらわれず転職したのが大正解だったと思っています」

転職にリスクは付き物だ。これまでの申し分ないキャリアを捨てるとなれば、勇気もいる。だが、リスクを少なくし、勇気を出して挑戦すれば、あとは努力次第で成功はつかめる。前田さんはその好例だろう。